

令和5年度 せせらぎスクール推進事業報告書



※写真は里山創生やぶきのみなさん

福島県環境創造センター

目次

第1	せせらぎスクール推進事業とは	1
1	はじめに	1
2	せせらぎスクール（全国水生生物調査）の経緯	1
3	せせらぎスクールとSDGs	2
第2	令和5年度せせらぎスクール推進事業の実績	3
1	せせらぎスクール	3
	（1）募集案内及び資材の提供	3
	（2）資材提供団体	4
	（3）調査結果報告団体	5
	（4）調査結果報告団体の紹介	6
2	せせらぎスクール指導者養成講座	9
	（1）初級編 郡山会場	10
	（2）中級編 須賀川会場	12
	（3）実践編 いわき会場	13
第3	今後の展望	15

第1 せせらぎスクール推進事業とは

1 はじめに

福島県環境創造センター(以下「センター」という。)は、身近な河川等での水生生物による水質調査(以下「水生生物調査」という。)を通じて、県民の水環境保全に対する意識の高揚を図ることを目的に、せせらぎスクール推進事業を実施しています。小・中学校、高等学校、市民団体等(以下「学校や団体等」という。)に参加を呼び掛け、申込みのあった学校や団体等に対し水生生物調査に必要な資材を提供するとともに、「せせらぎスクール指導者養成講座」を開催して、水生生物調査の指導者を目指す方の育成を行っています。

また、せせらぎスクール推進事業をより多くの方々に周知するため、「せせらぎスクール推進事業報告書」及び「せせらぎスクール～うつくしま川の体験マップ～」の作成・配布を行い、せせらぎスクール推進事業の普及・啓発を図っています。

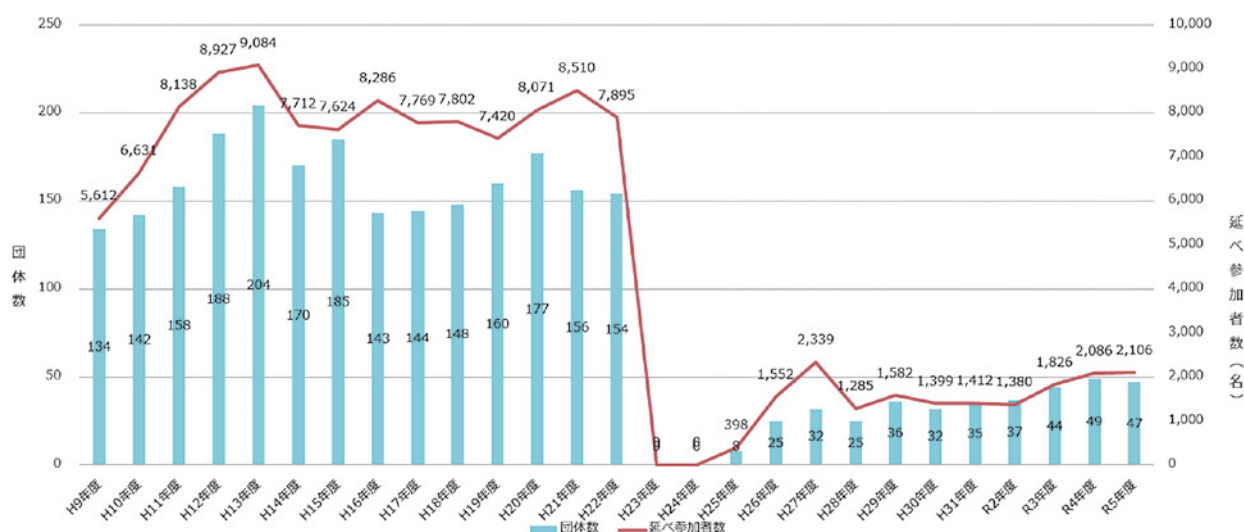
2 せせらぎスクール(全国水生生物調査)の経緯

昭和59年度から環境省と国土交通省による「全国水生生物調査」が開始され、福島県では水生生物調査(「せせらぎスクール」)を行う学校や団体等に対し、水生生物調査の実施を呼び掛けています。平成9年度から平成22年度は、数多くの学校や団体等が参加して「せせらぎスクール」の延べ参加人数は14年間連続全国1位(ピーク時は9,084名[平成13年度])でした。

しかし、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に起因する原子力災害の影響を受け、屋外活動の制限、川辺の活動への不安等から、「せせらぎスクール」に参加する学校や団体等が大きく減少しました。

平成23年度から平成25年度まで参加募集を休止していましたが、平成26年度から再開しています。近年の延べ参加人数は1,400名程度でしたが、令和5年度の延べ参加者数は2,000名を超えました。「ふるさとの川・荒川づくり協議会」や「西郷くらしの会」、「夏井川流域の会」、「遊水会」、「赤羽子供育成会」、「湯川を美しくする会」をはじめ震災前から地域で水生生物調査を実施している団体を中心に、県内の学校や団体等に「せせらぎスクール」の活動が広がりつつあります。

【せせらぎスクール(全国水生生物調査)の実績[平成9年度～令和5年度]】







※平成25年度は参加募集を休止していましたが、自主的に水生生物調査をした団体で全国水生生物調査への参加を希望する団体(8団体398名)の調査結果を環境省に報告しました。

3 せせらぎスクールとSDGs

(1) SDGsとは

- SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、2015年の国連サミットで採択された「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。
- SDGs は社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17の目標(ゴール)と169のターゲットで構成されており、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標とされています。
(出典：福島県環境教育等行動計画【第2次】)

(2) せせらぎスクールとSDGsの関連

- 「せせらぎスクール」は水環境保全意識を高め、身近な水環境(河川)を大切にする活動です。「せせらぎスクール」は主に内陸の淡水域(河川)で活動するので、SDGs17のゴールのうち、主にゴール15(陸の豊かさを守ろう)に該当します。
- 「せせらぎスクール」を通して水環境保全意識を高め、自らの生活排水等を改善し、水質保全の取組を実践していくことは、SDGsのゴール6(安全な水とトイレを世界中に)にも該当します。
また、身近な水環境(河川)を大切にすることは、やがて海にも影響を与えるのでSDGsのゴール14(海の豊かさを守ろう)にも繋がります。
- 私たちの水環境を大切にする活動を、1人また1人と周りの人に伝播していくことによって、今あるふくしまの美しい水環境を後世に守り繋いでいくことができます。周りの人と協力してSDGsを意識した活動を広げていくことは、ゴール17(パートナーシップで達成しよう)にも繋がっていきます。
- 自らがSDGsのゴール15・6・14・17を意識した活動(水生生物調査や水環境保全の取組)を実践して、周りの人に気づきを与え、水環境保全の意識や活動が伝播していくよう、できることから積み重ねていきましょう。



せせらぎスクールとSDGsの関連(イメージ)

- ① 「せせらぎスクール」への参加 ➤ SDGsのゴール15
- ② 「せせらぎスクール」参加後の水環境保全の取組 ➤ SDGsのゴール6・14
- ③ 水環境保全活動の伝播 ➤ SDGsのゴール17

☆本県が実施するせせらぎスクールとSDGsとの関係性に関する動画を作成しました。
ぜひ2次元コードよりご視聴ください!



動画はこちらから

第2 令和5年度せせらぎスクール推進事業の実績

1 せせらぎスクール

(1) 募集案内及び資材の提供

県内の「各市町村、各市町村教育委員会、国立小・中学校、各私立小・中学校、各県立高等学校、各私立高等学校、水生生物調査実施団体、各公民館、各自然の家、こどもエコクラブ、県教育庁、各県教育事務所、県教育センター」などに「せせらぎスクール」の募集案内を行い参加を呼び掛けました。

申込みがあった学校や団体等に、水生生物調査に必要な教材を提供するとともに、調査結果（調査場所及び参加人数、採集した水生生物、調査場所の水質階級等）を報告していただきました。

ア 募集期間 令和5年4月21日（金）から令和5年9月29日（金）

イ 調査の実施期間 令和5年4月21日（金）から令和5年10月13日（金）

ウ 調査結果の報告 令和5年10月20日（金）

エ 提供資材

(ア) 下敷き：参加者全員に1枚ずつ

(イ) 冊子：「川の生き物を調べよう」参加者全員に1冊ずつ

(ウ) COD パックテスト：参加者1人に対し1本×調査地点数

(エ) パックテスト比色表：COD パックテスト20本に対し比色表1枚

(オ) せせらぎスクール調査結果集計用紙

(カ) その他説明書等



せせらぎスクールに申込みをした学校や団体等に提供した資材

(2) 資材提供団体

令和5年度は延べ45団体(2,098名)にせせらぎスクールの資材を提供しました。

No.	団体名	人数
1	田村市立船引小学校	96
2	石川町立石川小学校 第4学年	82
3	いわき市立三和公民館	33
4	いわき市立入遠野小学校	15
5	福島市立三河台小学校	74
6	川俣町立川俣小学校	69
7	西郷村立川谷中学校	43
8	いわき市立好間第一小学校	59
9	小川環境委員会	20
10	田母神環境委員会	20
11	ふたば未来学園中学校 第2学年 (NPO法人浅見川ゆめ会議)	30
12	夏井川流域の会	40
13	水辺の会 わたり	80
14	伊達市立大田小学校	18
15	相馬市立山上小学校	13
16	須賀川市立長沼東小学校 第4学年 (遊水会)	17
17	須賀川市立長沼小学校 第5学年 (遊水会)	21
18	須賀川市立第一小学校 第5学年 (遊水会)	102
19	須賀川市立西袋第二小学校 第5・6学年 (遊水会)	19
20	須賀川市立阿武隈小学校 第5学年 (遊水会)	84
21	須賀川市立長沼中学校 第1学年 (遊水会)	36
22	豊町緑守り隊 (遊水会)	13
23	みどりトラスト長沼 (遊水会)	11
24	志茂グリーンフィールド (遊水会)	58
25	塙町立塙小学校 第4学年	45
26	いわき市立磐崎小学校	88
27	福島市立瀬上小学校	105
28	郡山市立熱海小学校	16
29	里山創生やぶき	30
30	会津若松市市民部環境生活課環境グループ	29
31	郡山市立河内小学校 第5・6学年	16
32	棚倉町立高野小学校	16
33	鮫川漁業協同組合	27
34	白河市立関辺小学校	20
35	もとみやプラット	35
36	福島市河川課	250
37	追原清流かじかの里	25
38	福島大学附属中学校	139
39	南相馬市立上真野小学校 第3・4学年	16
40	会津若松市市民部環境生活課	82
41	環境学習会	56
42	パルシステム福島環境委員会 (夏井川流域住民による川づくり連絡会)	30
43	FAKP福島アクティブキッズProject	10
44	柳津町立西山小学校 第5・6学年	9
45	もとみやプラット	1
	合計	2,098

(3) 調査結果報告団体

「せせらぎスクール調査結果集計用紙」により、延べ47団体(2,106名)から調査結果を報告いただきました。

No.	団体名	人数
1	いわき市立三和小学校(いわき市立三和公民館)	37
2	伊達市立大田小学校	18
3	いわき市立好間第一小学校	61
4	夏井川流域の会	14
5	福島県立ふたば未来学園中学校(NPO法人浅見川ゆめ会議)	30
6	広野町立広野小学校(NPO法人浅見川ゆめ会議)	30
7	石川町立石川小学校	83
8	いわき市立入遠野小学校 第3・4学年	15
9	里山創生やぶき	30
10	西郷くらしの会	24
11	ステップアップ講座(西郷くらしの会)	20
12	いわき市立磐崎小学校	79
13	田村市立船引小学校	90
14	パルシステム福島環境委員会(夏井川流域ネットワーク)	25
15	FAKP 福島アクティブキッズProject	5
16	小川環境委員会	19
17	田母神環境委員会	25
18	福島市立瀬上小学校	102
19	環境学習会(福島県環境創造センター)	66
20	福島大学附属中学校	139
21	西郷村立川谷中学校	12
22	川俣町立川俣小学校	138
23	郡山市立河内小学校 第5・6学年	30
24	郡山市立熱海小学校	16
25	相馬市立山上小学校 第3・4学年	10
26	柳津町立西山小学校 第5・6学年	9
27	水辺の会わたり	27
28	須賀川市立長沼東小学校 第4学年(遊水会)	17
29	須賀川市立長沼小学校 第5学年(遊水会)	20
30	須賀川市立第一小学校 第5学年(遊水会)	102
31	須賀川市立西袋第二小学校 第5・6学年(遊水会)	19
32	豊町緑守り隊(遊水会)	10
33	志茂グリーンフィールド(志茂子供育成会・遊水会)	56
34	みどりトラスト長沼(遊水会)	18
35	須賀川市立阿武隈小学校 第5学年(遊水会)	160
36	須賀川市立長沼中学校 第1学年(遊水会)	41
37	遊水会	21
38	会津若松市立湊小学校	18
39	会津若松市立門田小学校	68
40	いわき市立川部小学校(鮫川漁業協同組合・しとぎを考える会)	19

41	棚倉町立高野小学校 第3・4学年	19
42	南相馬市立上真野小学校 第3・4学年	18
43	白河市立関辺小学校 第4学年	22
44	塙町立塙小学校	44
45	もとみやプラット	46
46	福島市役所建設部河川課	173
47	せせらぎスクール指導者養成講座（福島県環境創造センター）	61
	合計	2,106

※調査地点毎に人数をカウントしているため、延べ人数として集計しています。
 ※資材提供をしていない学校や団体等からの報告も含まれます。
 ※国土交通省における全国水生生物調査の人数は含まれておりません。

(4) 調査結果報告団体の紹介

※活動の写真や参加者の感想を提供いただいた調査結果報告団体のうち、一部を紹介します。

ア いわき市立三和小学校

- (ア) 実施年月日：令和5年5月31日（水）
- (イ) 実施場所：三和小学校前（好間川〔水質階級Ⅰ〕）
- (ウ) 人数：37名



水生生物を採集している様子



ナミウズムシ→



カワゲラ類→

- 水質階級Ⅰ：ヒラタカゲロウ類、ナミウズムシ、カワゲラ類、ヘビトンボ、ヤマトビケラ類
- 水質階級Ⅱ：オオシマトビケラ
- 水質階級Ⅲ：シマイシビル
- ◎その他の生物（水生生物、貝、エビ・カニ類）：ヤゴ、ガガンボ、イトトンボ、ナベブタムシ、アカハライモリ
- ◎魚類：ドジョウ、ヤマメ、アブラハヤ

イ 福島県立ふたば未来学園中学校

- (ア) 実施年月日：令和5年7月1日（土）
- (イ) 実施場所：双葉郡広野町（浅見川〔水質階級Ⅰ〕）
- (ウ) 人数：30名



水生生物を採集している様子

- 水質階級Ⅰ：カワゲラ類、ナガレトビケラ類、ヒラタカゲロウ類、ヘビトンボ、ヤマトビケラ類
- 水質階級Ⅱ：コオニヤンマ
- 水質階級Ⅲ：シマイシビル
- ◎その他の生物(水生生物、貝、エビ・カニ類)：キイロカワカゲロウ、シマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ、シロタニカワカゲロウ、ニンギョウトビケラ、ガガンボ、コガタシマトビケラ、スジエビ

ウ 夏井川流域の会

- (ア) 実施年月日：令和5年6月5日（月）
- (イ) 実施場所：いわき市小川町（夏井川〔水質階級Ⅰ〕）
- (ウ) 人数：14名



ヒラタドロムシ類



水生生物を採集している様子

- 水質階級Ⅰ：カワゲラ類、ヒラタカゲロウ類、ヘビトンボ
- 水質階級Ⅱ：コオニヤンマ
- ◎その他の生物（水生生物、貝、エビ・カニ類）：ヒゲナガカワトビケラ、マダラカゲロウ、チラカゲロウ、タニカワカゲロウ、キイロカワカゲロウ、ガガンボ、モクズガニ、サナエトンボヤゴ、オニヤンマヤゴ
- ◎魚類：アブラハヤ、ドジョウ、スジエビ

【参加者の感想】

- ・川を大事にしたいと思ったし、川をよごさないように気を付けようと思いました。
- ・いつも見ている安達太良川の生き物を調べることができてよかった。サワガニを見ることができ、きれいな川になるよう自然を大切にしていきたいと思います。

2 セせらぎスクール指導者養成講座

水生生物調査の指導者を養成し、各地におけるせせらぎスクールの活動の促進や学習内容の質を高めることで、県民の水環境保全意識の高揚を目的に、センターではせせらぎスクール指導者養成講座を開催しています。

令和5年度は、初心者向けの講座（初・中級編）と実践的に水生生物調査の指導を行う実践編を開催しました。

【講座の概要】

名称	内容	対象（※）
初級編	<p>講義や河川実習をとおして、以下の内容について学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査にあたっての準備 ・水生生物調査の進め方 ・指標生物の説明 ・河川での水生生物採集 ・採集した水生生物の指標判定 ・水質評価の方法及び水生生物調査のまとめ 	<p>次のいずれかに該当する方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①水生生物調査未経験の初心者の方。（水生生物調査の指導に興味のある方。） ②新たに水生生物調査等の指導者的役割を担うこととなった方。（過去に受講経験のある方を除く。）
中級編	<p>講義や河川実習をとおして、以下の内容について学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級編の内容に加えて、「顕微鏡による水生生物の観察と同定実習及び解説」を実施 	<p>次のいずれかに該当する方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①初心者の方 ②水生生物調査に参加した経験がある方で、水生生物の同定についての知識を深めたいと希望する方。
実践編	<p>水生生物調査の実施方法等について、一般の親子を対象に実践的な指導を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の安全確保 ・水生生物調査の進め方 ・河川での水生生物採集 ・採集した水生生物の指標判定と水質評価 ・実施方法や指導方法等についての意見交換 	<p>次のいずれかに該当する方</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水環境教育指導者養成講座または、せせらぎスクール指導者養成講座の初・中級編経験者。 ②水生生物調査の指導者をされている方（又は過去にされていた方）で指導者としての知識・技術・ポイントを再確認したいと希望する方。

※教職員、公民館の指導員、こどもエコクラブサポーター、環境保全活動団体関係者、自治体関係者等を対象に参加を呼びかけています。

(1) 初級編 (郡山会場)

ア 日 時：令和5年5月27日(土) 10:00～15:20

イ 場 所：郡山市河内ふれあいセンター (実習：逢瀬川)

ウ 講 師：福島大学共生システム理工学類 塘 忠顕 教授

エ 人 数：[受講者]16名 [講 師] 1名

※受講対象：水生生物調査未経験(初心者)で水生生物に興味のある方、
新たに指導者を目指す方

[協 力] 1名 [事務局] 4名

※水生生物調査の指導経験が豊富な方に「協力」という立場で、受講生のサポートを
していただきました。



↑コオニヤンマ

オ 講座の内容

(ア) 河川下見 10:20～10:40



河川下見の様子

(イ) 講義「水生生物調査の方法、指標生物の説明」 10:55～11:50



講義中の様子

(ウ) 水生生物の採集と観察 12:45～14:15



水生生物の採集を行う受講生

(I) 講義「水質評価の方法・水生生物調査のまとめ」 14:45～15:10

カ 参加者の感想 ※アンケート集計結果から抜粋

- ・生物にとっての環境保全について、少しでも周知できるよう業務にあたりたい。
- ・活動をして楽しかったで終わらずに、生き物の命のこと、自然環境のことにまで目を向けられる子どもを育てられるようにしていきたいと思った。

(2) 中級編 (須賀川会場)

ア 日 時：令和5年6月17日(土) 9:30～15:10

イ 場 所：長沼保健センター (実習：江花川)

ウ 講 師：福島大学共生システム理工学類 塘^{つつみ} 忠^{ただあき} 教授

エ 人 数：[受講者]21名 [講 師] 1名 [事務局] 4名
※受講対象：水生生物調査未経験(初心者)で水生生物に興味のある方、
新たに指導者を目指す方

オ 講座の内容

(ア) 講義「水生生物調査の方法、指標生物の説明」 9:35～11:00

(イ) 屋内実習 11:50～14:10



野外実習の様子

(ウ) 講義「水質評価の方法・水生生物調査のまとめ」 12:50～14:10

カ 参加者の感想 ※アンケート集計結果から抜粋

- ・勤務先の小学校で実施する水質調査に役立てたい。
- ・実際に現地で指導する立場で学んだことを実践したい
- ・今日のことを生かしながら、子供たちと水質調査を続けて行きたいです。そして、少しでも多くの子供たちに環境について興味を持って貰えるようにしたいです。

(3) 実践編 (いわき会場)

せせらぎスクールの指導を行う受講生が、水生生物調査の実施方法等について一般親子に説明する実践的な指導の場を提供し、指導者としての資質向上を図ることを目的にせせらぎスクール指導者養成講座実践編を開催しました。

ア 日 時：令和5年7月29日（土）9:00～14:40

受 講 生…9:00～14:40

一般親子…10:00～12:00

イ 場 所：いわき市小川公民館（実習：夏井川）

ウ 講 師：福島大学共生システム理工学類 ^{つつみ}塘 ^{ただあき}忠顕 教授

工 人 数：〔受講生〕7名 〔一般親子〕16名 〔講師〕1名

〔協 力〕1名 〔事務局〕3名

※水生生物調査の指導経験が豊富な方に「協力」という立場で、受講生のサポートをしていただきました。

オ 講座内容

(ア) 受講生 現地（夏井川）確認 9:00～9:45

パックテストの実施方法及び水生生物調査の調査範囲、危険箇所の確認を行うとともに、塘教授に水生生物調査の指導に係る注意点について説明を行いました。

(イ) 開講式 10:00～10:10

受講生及び一般親子がいわき市小川公民館に集合し、開講式を行いました。

(ウ) 現地（逢瀬川）へ移動 10:10～10:20

夏井川に移動して水生生物調査における注意事項を説明。その後、受講生と一般親子には、お互いに自己紹介をしていただきました。

(I) 水生生物調査と水質評価・判定 10:30～12:00

受講生を中心に、水生生物調査参加親子に水生生物調査の方法及び水質評価・判定の説明・指導を行いました。



水生生物調査の様子



水生生物の同定を指導する受講生

(オ) 閉講式 12:20～12:30

夏井川からいわき市小川公民館に戻って閉講式を行いました。

※一般親子は閉講式後に解散。

(カ) 意見交換会 13:10～14:00

実際に水生生物調査の指導をしておいた反省及び意見交換を行いました。

※参加者：講師、受講生、事務局等



意見交換会の様子

《意見交換会の概要》

- ・ 中学校での理科の授業や総合的な学習の時間で取り扱う環境学習において、河川調査を取り入れながら水環境について考える機会をとるとともに、子どもから水環境について発信できるようにしていきたい。
- ・ 生活排水などの実生活につなげて話ができるようにしたい。
- ・ 実習は楽しいが、一番伝えたいところ、目的がしっかり伝えられるように努力したい。
- ・ 川に親しみながら、環境について考えさせていきたい。川の危険についても知ってもらえるようにしたい。そのうえで、川の役割を伝えていきたい。
- ・ もっと多くの人に、水生生物や自然を守りふれあうことの大切さとおもしろさを知ってもらえるようにしたい。

カ アンケート集計結果（一部抜粋）

[一般親子の感想]

- ・ 水質を守る為に、何が出来るか親子で考えていきたい。
- ・ 水質が悪くならないための環境づくりや、生き物を大切にすることを子供とともに考えて生活したいと思いました。

[受講生の感想]

- ・ もっとたくさんの人に、自然と触れ合う楽しさや大切さを伝えたい。
- ・ 採集だけではなく、水環境の視点を持ちながら指導できるようにしたい。
- ・ 実施の目的である水環境を考えることを忘れていけないと思った。

第3 今後の展望

身近な水辺環境を見直し、水環境保全への関心を一層高める事を目的に、令和5年度も「せせらぎスクール」推進事業において、申込みのあった学校や団体等に必要な資材を提供し、また、水生生物調査の指導者を養成するため、せせらぎスクール指導者養成講座を開催しました。

東北地方太平洋沖地震に起因する原子力災害の影響を受け、平成23年度から平成25年度まで「せせらぎスクール」の参加募集を休止したことにより、活動が激減し、指導者も減少してしまいましたが、震災前から「せせらぎスクール」を継続している学校や団体等（指導者）を中心に、現在、その活動が広がりつつあります。

近年、せせらぎスクールの延べ参加者は1,400名前後を推移していましたが、近年は2,000名を超えています。県内それぞれの地域で、「せせらぎスクール」を実施した指導者の皆様に心より感謝申し上げます。今後も「せせらぎスクール指導者養成講座」を開催し、質の高い学習機会を提供して指導者を増やしていきたいと考えています。

1人の指導者がそれぞれの地域で、「せせらぎスクール」を実施することで、「せせらぎスクール」の楽しさや水環境保全意識を多くの方に広めるきっかけになります。

今年度「せせらぎスクール」に参加した小・中学校からは、『地域の川の水をきれいにしたい！』『川の水を汚さないために、ゴミを見つけたら拾ったりして自分にできることをしていきたい！』という、感想が寄せられました。指導者の皆様の御尽力のお陰で、水環境保全意識の輪が着実に広がっています。

センターにおいては、県内の「せせらぎスクール」の活動を少しでも支援できるよう、引き続き資材提供や指導者の養成に取り組んでまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

令和5年度せせらぎスクール推進事業報告書

◆発行日 令和6年3月

◆発行 福島県環境創造センター

住所：福島県田村郡三春町深作10番2号

電話：0247-61-6129

FAX：0247-61-6119

メール：kansou-kikaku@pref.fukushima.lg.jp

ホームページ：<https://www.fukushima-kankyosozo.jp/seseragi-school.html>



環境創造センターHP
